

古事記の 上巻 神代の巻きは天地の初めの時・・・高天原に成りませる神の名は・・・（と始まります。

この冒頭の言葉である天地の初めの時とは、幾度となくお話してまいりましたように、現在の古典文学者や宗教家の話すような、眼前に展開している目に見える外界の宇宙の数 100 億年も前の生成の時のことではなく、私たちの内面の、心の宇宙について言っているのです。その天地の初めといえ、心の中にまだ何も起こっていない透明な、真っ新たな宇宙ということになります。この何か起こる以前の 真っ新たな宇宙、意識に上る現象が起こる以前の宇宙である高天原に、すなわち哲学で言う、先天宇宙に何があるのか。古事記はその先天宇宙になるものとして、ずらずらずらっと合計 17 個の神様の名前をあげています。この神名にあたる言霊を並べますとアオウエイの 五母音と ワヲヱヰ 4 半母音チイキシリヒニの八父韻、合計 17 個の先天宇宙を構成する言霊です。

そしてこれら 17 個の言霊が 活動を開始して 現象を生み出そうとする瞬間、それが 私たちにとって今であり 此所であるわけです。続日本書紀は この今・此所を中今と呼んでいます。言い換えますと宇宙は、この中今において剖半して現象を生む、その時が今であり・此所である、ということです。

そこで考えてみましょう 私たちの遠い祖先は 見ることも意識することもできない心の 先天宇宙に 17 個の 言霊があるとどうしてわかったのでしょうか。どのようにして 発見したのでしょうか。「大昔の人は、目まぐるしい現代のような 物質文化に穢されていない 感性の鋭い人たちであったに違いないから、意識できない心の内の存在ともツーカーに連絡できる感受性を備えていたのでしょうか」と言う人がいます。大昔の人々が 現代人より清透な感性を持っていたことは、万葉集の歌を見ましても、首肯できます。けれど 先天 17 言霊それに続く 32 子音と言霊学の百個の全体系をただその鋭い感性だけで発見完成させ

ることなどできるはずはありません。その鋭い感性に支えられた 精細な論理性と 長年月の研究との結果の発見であったに違いありません。

先天の構造 ○ 私たちの祖先はどのようにして知ったのでしょうか 意識することのできない先天構造の内部を 研究する道はただ 1 つしかありません その唯 1 の道を—現代物理学が教えてくれます 物理学の詳細はもちろん 分かりませんが、聞くところによると 原子核内の—粒子をそれぞれ分離させ、それを 巨大なサイクロトロン などの加速器の中で 猛烈な速度に加速させ、その加速された目に見えぬ物質要素を特殊な写真乾板その他に衝突させそれによって現れる現象によって、物質を構成している原子核内の粒子のエネルギーや大きさ等計算し、そういう作業を注意深く観察し、そのデータを根気よく集める事によって逆に現象を現出させてくる物質の先天要素の存在と内容を推察して 行くと言う方法を取るのだそうです。

私たちの祖先が大昔に採用した方法も同様なものであったに違いありません。ただ違うのは現代物理学の研究が人間から見て外界の物質世界の探求であるのに反し、私たち祖先のそれはあくまで自らの心の中への探求であったことです。人間の心の中に起こる出来事 人と人との間に起こる出来事、そこに展開される心の動き、種々のそれらの出来事を持ち寄り、それらの出来事がなぜ起こるか、出来事が起こるための起こる以前の心の内面はどうなっているのか。大勢の人々の長年の月にわたる議論研究が行われたことでしょう。現象から現象以前の先天構造へ、推理された先天構造よりみて、集められた後天の心の構造に 矛盾が起こらないかどうか後天より先天へ先天より後天へ、観察と理論構成は何回となく繰り返されついに先天構造として 17 音言霊、後天現象の要素として三十三子音言霊、合計五十

個の言霊とその言霊の典型的な動き五十個 計百にまとまる壮大にして精密な人間の心の構造の一切を示す言霊布斗麻邇の原理が完成されたのです。言霊の原理は古代人の感性ばかりでなく、大勢の人の長年の研究の成果であったことに間違いはありません。

さて「天地の初めの時」の章をお話するにあたって、私は、心の本体と言われている禅の空キリスト教の救われ、などと表現される心の宇宙と、それまで私自身と思い込んできたもの、すなわち私が生まれてからその時まで集めてきた経験知を真っ向から対立させてみました。数えただけでも幾十ある私の経験値知を以て、それらを総動員することによって生まれたままの（真っ新な）心の宇宙に迫ることができるか。私の持つ知識はあえなくも一つ一つ討ち死にして行きました。今まで私の存在の拠り所と思っていた知識が私自身が思っていたほどの力もなく、大きくもないことに気づくことは決して楽しいことではありません。経験して得た価値あるものと思われていた知識が、実際にその知識の総合体と思われた私自身のそれまでの生涯を楽しみ意義あるものにしてくれたであろうか、かえってその生涯は闘争と焦虚しゅうきょのくらい一緒ではなかったか、そしてそれが空とか救われとか全く縁のない空虚なもので あったことに気づき、それを確認することになった時、それら生まれてから何十年の間一生懸命に勉強し、集めてきた経験知が、そしてそれらの思想自体が自分というものの中にあっては何の価値もたるものであることを知った時、経験知の集積としての自我意識はいつの間にか跡形もなく永久消え去ってしまったことでした。

と同時にそこに内観される心の宇宙の透明さ、なごやかさ、そしてその涯はてしない無限の広さ、それは実際の表現に言葉のない世界です。今までの心の葛藤の連続の生活が いかにも空虚なものであり、時

間と空間の中に押しつぶされた地獄の様相そのものであったことか。その自我が消え、眼前に展開する心の宇宙の大きさを知り、またそれを表現するに言葉がなく、それを考え得る思惟もないことを知った時、人間というものの存在の分際を知った思いでありました。人間の心と言葉すなわち人間の能力の限界はここまで、と烙印を押されたのです。

言い換えますと人間の思惟能力には「無限」という壁があって、その向こうに何があるのか、ないのか、それは人間が気づき知らぬことなのです。ある宗教はその無限の向こうは更に別の宇宙を設定し、そこに居る神々のことについて説いています。如何なる設定も自由ですが、それは虚妄であり、単なる空想の産物に過ぎません。人間に許された性能は此所より彼処までまで、それが真実です。人間の思惟に限界があり、無限という壁がありますので、人間がそれでも何かしようとするならば、行き止まりの壁から今までの道へ引き返さなければなりません。それしか道はありません。では何処に引き返すのか、それは物事が始まろうとする瞬間、すなわち今・此所である中今です。人間の、そして人類の生命は実はこの永遠の中今に住んでいます。人間の生命である五十音言霊とは、この中今に展開する生命そのもの、その生命が自らを自覚した姿のことを言うのです。

この先天の宇宙の中に何があるのでしょうか。まずはアオウエイ五母音で示される五界層の次元宇宙です。宇宙の中の実在はこの五の次元宇宙以外には存在しません。次に5次元宇宙と陰陽を成す四半母音宇宙です。次には言霊イの創造意志の展開である八父韻チイキミシリヒニ示される人間の創造知性の原律です。

この五界層の次元宇宙の自覚を一つ一つ登って行き、創造意志の言霊イの次元に自らの視点を置く

とき、この十七の言霊以外に心の宇宙に存在するもの無いことを知るので。

古事記神話に示される先天を構成する「天津神諸々の命」である天の御中主の神（言霊ウ）から十七番目の伊耶那美神（言霊ヰ）までの 17 神以外、先天宇宙の神はいません。

右の先天十七神、十七個の言霊は人間を人間たらしめている根本の性能であり、人間生命の原動力であります。それは生命の光であり、光の根源ともなるものです。

日本民族伝統の アイウエオ 五十音言霊復活のための 唯一の教科書である 古事記神代の巻は「天地の初発の時、高天原になりませる神の名は、天の御中主の神（言霊ウ）と始まります。すなわち 言霊学の勉強の第一歩は アイウエオ五母音の検討です。この五母音のことを 中国の儒教は木火土金水と伝え インドの哲学は地水風火空と名付けています。木火土金水も地水風火空も実際に、外界世界に存在するものを喩えとする概念象徴でありますから、それ実際に何を指しているか、を考える人を自然外界の事物に導いてしまう傾向があります。ところが、言霊学は アイウエオ 五母音で示しています。

母音一音では、人の思惟が入り込む余地がありません。ですから、それがなんであるかは、古事記が示す神様の名前に基づいて、自らの心の中に求めるより方法は残されていません。そこに古事記言霊学の心と言葉の根本原理を学ぶための他に比類なき 独壇場が展開されているのです。母音言霊アイウエオは何の心の何を指して示しているのでしょうか。それは 人間の心の現象のすべてがそこから現れてそこに消えていく元の宇宙です。言霊の宇宙から人間の五官感覚による原識、それに基づいた欲望が現

出します。言霊オの宇宙から経験値が、言霊アからは感情現象が、言霊エから実践値智・選択智が、言霊イから人間の創造意志が発現してきます。人間の天与の性能はこの五母音から発現してくる性能で全部であり、その他の性能はありません。言いかえますと人の心はこの五母音宇宙を住処としているのです。五重次元構造の宇宙が心の家であります。五重^{いゑ}が人の住む家の語源であります。

母音の次は ウヲワエヰの半母音です。半母音とは、母音が一切の現象を生み出す主観の宇宙であるのに対し、半母音は主観の呼びかけに答える客観宇宙です。母音は私半母音はあなたです。もちろん古事記が教えるように母音も半母音も「隠り神」であり、それ自身は決して現象として姿を現わすことはありません。母音としての私が目を閉じ、耳・口・鼻を塞いで、じっと何もしないならば、何の現象も起こりようがありません。目を開け、耳・口・鼻を活動させ、人や物に何かの働きかけを始めますと、初めてそこになんかの出来事が起こります。現象の発現です。それは対象となる半母音宇宙に母音宇宙呼びかける^{よばい}（婚）事から始まります。そしてその呼びかけとなる母音と半母音の橋渡しをするのが八つの父韻ということになります。八つ父韻のことはさておき現象生むにあたって母音と半母音（私と貴方）の関わり合いについて話してみましょう。私が出来事を生むためには、私自身が何かを対象として捉え（その対象となるもの、自分であっても、他人であっても、物や事でも構いません）それらに何らかの働きかけを行う時だけに限られます。なんの関心も示さず、何もしなければ現象は起きません。現象が起きるにはアとワの交渉が必要なのです。

それなら、人人間の心は母音である 五つの次元宇宙から発現するのですから、そのそれぞれの、次元の現象はアとワ、私と貴方がどのような関わり合いで発現してくるか、を考えてみることにします。その作

業の末に、スメラミコトの世界政治の心の構造が明らかになるはずで

前にもお話ししましたが、言霊ウの宇宙から五官感覚の原識の現象が、社会的には産業・経済活動が起こります。言霊オからは経験値知が、そして学問・科学が起こります。言霊アからは感情が、芸術・宗教が起こり、言霊エからは実践智が、そして道徳・政治の世界が始まります。言霊イから発言する人間性能は想像意志ではありますが、意志そのものは現実の現象とはならず、ただアとワ、私と貴方を結ぶ架け橋である八つの父韻として発現し、後天のウオアエ四次元に属する現象を起こさせる原動力となります。

スメラミコト（天皇）とは 6

島田正路氏著「コトタマ学」上より抜粋

その 195

さて右のように次元の違いを表わす母音の違いが私と貴方（アとワ）との関係でどう違って来るかを検討してみましょう。まず言霊ウの次元です。その現象の典型として商売の心を取り上げてみます。商売には売り手と買い手があります。売り手をアとすると買い手はワとなります。普通の商売でしたら売り手は買い手に品物を買ってもらわなければなりません。もっと正直に言えば、買い手に是が非でも買わせなければなりません。買うことをなるべく長い時間持続されることが望ましいことです。「いらっしゃい」「ありがとうございました」の言葉、値引きのサービス、買い手に対するお世辞、すべては商売繁盛のための手段であっ

て、相手の人格の尊厳を認めてなどのものではありません。むしろ買い手そのものが、売り手の手段となることが最も商売しやすくすることでしょう。アはワを目的とせず、手段と考えます。「それはあまりに極端な言い方だ、商人だってお客様に本当に有難い、と思っている人もいるのだ」と不満に思う方もいらっしゃるでしょう。お気持ちは分かります、けれども商人のお客さんに対する「ありがとう」がご利益信仰でない真の信仰の「ありがたい」とは全く質問違ったものであることを、お気づきになることと思います。言霊ウの次元におけるアとワの関係は以上のようなものです。そしてこの宇の次元におけるアとワを結ぶこのような関係を言霊学は父韻を持ってア・カサタナハマヤラ・ワと示しているのです。

次に言霊オ次元について考えましょう。オから発現する現象は人間の経験知です。その社会的現象は学問・科学です。そこで学問の担い手である学者の心理について考えていくことにします。

1 人の学者がいます。同僚が新説を発表しました。学者はその新説について真偽を調べ考えます。「うん、これは真理に対してユニークな学説だ」と知ります。そこで新説に全面的に感心し、屈服してしまったなら、その学者の学者生命は終わりとなるでしょう。

けれどその学者がもう一步踏ん張って、「新説は確かに良いところに目をつけた。しかし改めて私の経験の立場からもっと幅広いデータを集め一段高い視野に立つならば、従来の説と彼の説と矛盾なく総合したさらに高次の法則は得られるのではないか」と考え研究を続けていけば、その学者としての生命は延び、学問自体も進歩発展して行くことでしょう。

以上の学者の心理と学問の発展状況を考えてみますと、学者とその同僚との関係はライバル同士ということになります。学者にとってその同僚は、個人的にいくら親しくても、仕事上ではいつ追い抜かれる

かもしれない油断のならぬ敵なのです。そして 以上のような経験知の葛藤による学問の発展を哲学では正反合の弁証法的発展と呼びます。従来の学説が（正）、新説が（反）、二つを統合した高次の立場（合）という三角形に発展して行く形式のことです。そしてこの心理ならびに発展形式の時置師を言霊でアカタマハサナヤラ・ワと示しています。アとワは敵対同士なのです。

その 196 に続く

スメラミコト（天皇）とは 7

島田正路氏著「コトタマ学」上より抜粋

その 196

言霊アの次元の検討に入りましょう。言霊アの宇宙から発現する人間性能は感情です。

その社会的現象は宗教・芸術ということになります。今・此所に一人の宗教家を例にとり、その心理を検討することによって、この次元の事件アとワの関係を明らかにしましょう。人を金のなる木と頑張って商売は富をもたらします。同僚をライバルと頑張って競い合う学者社会は 学問の成果を生み出します。けれどもそれらの人々の心の中に大きなストレスを生むことも確かです。矛盾が積み重ねれば人は耐えきれなくなり、悩む苦しむことになります。「人生とは何だろうか」と考えざるを負えません。人生の矛盾の解消を求めて信仰に入り、神仏にすがり、愛や慈悲の世界に目覚めていきます。人を手段として、同僚を敵として来た自分自身の欲望や経験的知識の虚しさ、儂さ、小ささに気づいてきます。そして、その時まで最も大切だと思って主張し戦ってきた自我自身が脆くも崩れ去ります。絶望が訪れます。

絶望に次いで、この人が生まれてからこの時まで経験したことのない真実と感情に出会うことと成ります。「私は好き勝手に自分で生きてきたと思っていた。けれど実は活かされていたのだ。なんとありがたいことではないか」と。生きることの絶望が活かされてきたという感謝にかかります。意識の 180 度の転換です。

意識の主演だと思い込んでいた自我はこの時以降端役になって薄い存在となり、意識の主演は活かしてくださっているもの、神・仏・大いなるもの・宇宙生命・光・愛・慈悲等々に変わります。「我は生かされているもの、汝も同様に生かされている者、我と汝と同根、また奇特ならずや」が実感となって証明されます。ここに到って 私と貴方は 個個別々のものではなく、神・仏・宇宙を同じ根っ子とした 神の子・仏の子・宇宙の子としての兄弟・姉妹・同胞と考えられることとなります。言霊ウとオにおいて貴方と私は全く個別の自我と考えられたものが、各々の本体は 大きな宇宙であり、宇宙の子として、個を超えた立場で結びつくこととなります。

その 197 に続く

スメラミコト（天皇）とは 8

島田正路氏著「コトタマ学」上より抜粋

その 197

言霊アの次元の次に言霊エにおける検討に入りましょう。言霊アの宇宙の自覚によって人はてんでバラバラの個別化を卒業して、自らの生命の本体が広い宇宙そのものであることに気が付きます。迷いと束

縛から放れ、心は自由に宇宙の中を遊ぶように楽しくなります。けれどその時までの自分が苦しみ抜いていたように、世の中には大勢の不幸な人がいることに今更のように気づきます。自分も悩みから抜け出そうとして修業を積んできた。これは自利の行であった。自ら自由になった今日からは人々を楽しい生活に導く利他の行をしようと決心します。この利他の行の段階が言霊工の次元です。言霊工の工とは選ぶの「え」です。その次元から選択智・実践智が発現します。人を導き、世を導くにあたり、自らが今まで経験してきた言霊ウオアの次元をどのように選んで言葉とするか、の選択が仕事となります。それは道徳行為であり、また政治行為でもあります。

さて言霊アから言霊工の、自利より利他の行為に入る時点に大きな岐路、分かれ道があることに気がつかなければなりません。言霊工の実行にあたり、分かれ道があります。その分かれ道を右にするか、左にするかの決定は、過去に二千年の暗黒の中から蘇ってきた言霊原理を自覚するか否かなのです。それについてお話しすることによって、この文章の表題である「スメラミコト」の出現とその御稜威^{みいず}が本当かどうか、の解答に行きつくこととなりましょう。

まず従来の言霊工、実践智の道を検討してみましょう。自らの束縛を脱し自由な天地に躍り出ることができた喜びを他の人に伝えようと人を導きます。そこに問題があります。人を導く方法として取られるのは、導く人が昔、修業をした自利の行の時の自らの経験値知なのです。自利の行の末にせつかく自我の殻を破り、広い宇宙に躍り出ることができたのに、利他の導きに入るとすぐに以前の個別化の言霊オの経験知に頼らなければなりません。逆戻りを余儀なくされます。自由な天地に躍り出て、大きく世界や人類の事を見る 視野・土台に立つことができたのに、その利他の行ではまた個人の殻に後戻りしなければなりま

せん。「地獄に落ちること 箭のごとくならんと」仏語は教えています。この段階においてアとワの結びつきを言霊学ア・タカラハサナヤマ・ワと示しています。

「自利の行では自由な天地を得たものを縁覚といい、初地の仏である。黙座しているときのみ仏である。故に更に発意して人生の第一義、一切種智（言霊）の修行に入れ」と法華経は教えます。そしてその修行の末に普賢菩薩の行法・すなわち世界人類をあまねく統一する賢い方が存在する、と説くのです。スメラミコトの道のことであります。

自利の行によって広い宇宙に解放された人が、自らの生命の本体が宇宙するものであることを知り個人を破った人が、そのまま利他の行に入ると個の殻に後戻りしなければならなくなるのはなぜなのでしょう。その理由はただ一つ、自らの生命の本体だと気づいた宇宙・神・仏・光・愛・・・と表現するものが、実は生命の究極のものではなく、言霊オの次元のところで用いてきた経験値知の概念であるからです。神も仏も・・・人により、社会・民族により、その受け止め方がまちまちです。

魂が自由な境地にある人が、他に働きかけるにおいてもその自由を保ち、更に働きかけられた人にも自由をもたらすことを可能にするためには、生命の本体とみなされた神・仏

・光・・・等の更なる究極の実体とその法則にまで遡ることが必要です。人間であるならば誰でも究極の生命存在とその法則としての承認出来、いろいろな概念説明を必要としない明らかなものに基づいた働きかけであることです。そのことを必要にして充分満たす生命そのものであり、光・神・仏・・・の真実の実体であるものがアイウエオ五十音布斗麻邇の原理なのです。

その 198 に続く

スメラミコト（天皇）とは 9

島田正路氏著「コトタマ学」上より抜粋

その 198

アイウエオ五十音の布斗麻邇の原理は「人間の心は何かの」問いに完全に解明した人間生命の最も合理的な厳密な学問です。個人の瞑想やまじないによって得られる霊能力ではありません。その原理は人類普遍共通の真理です。この原理は人間の想像意志の宇宙である言霊イの次元に存在しています。言霊イの創造意志は、他の四つの次元、言霊ウ（原識）・オ（経験知）・言霊ア（感情）・言霊エ（実践智）を統一し、発現させる原動力です。それ故にこの普遍の真理に基づいて他に働きかけがおこなわれるならば、世界の道徳・政治は何の停滞もなく行われることとなりましょう。

日本の神道で天津罪と呼ばれ、キリスト教で原罪と言われる人間が生まれた時より負うとされる不幸の原因となる罪とは 数千年前、この言霊の原理が世に埋もれたがために始まった罪であります。それ故この原理を自覚し、世界政治の責任を負う人が立つならば、戦争・飢餓等々人類不幸の大部分の原因となる罪は跡形もなく消えて なくなってしまうでしょう。暗黒は光の出現によって消える道理です。スルメスメラミコトの御稜威このようにして道徳による世界政治を可能にするのです。

日本石上神宮の布留の言本は以上のスメラミコトの世界経綸の方法を「アセエホレケ」と言霊をもつて教えています。「アセ」はアの瀬、アの次元の我と汝と同根という慈悲と愛の心によって、ということです。この心をスメラミコトの大御心と呼びます。それは世界中に起こるであろう出来事を、全て我が身のことと

考える立場です。「エホレケ」とはエ次元の実践智の結論（エ）を言霊（ホ）の列（レ）が良く整えられるように（ケ）宣べよ、ということです。スメラミコトの経緯における私と貴方、アとワの結びつきを父韻を以てア・タカマハラナヤサ・ワと表します。人類社会の永久の平和をもたらす人類最高の真理と言えましょう。スメラミコトとは世界人類を一人の人間とした時、その中枢神経となり、良心にあたる人なのです。

五十音言霊の一つ一つを霊といいます。その動きは霊駈り、すなわち光です。ここ三千年の須佐之男命の暗黒の夜を月読の命のおぼろげな月の光が照らして来ました。悩みに対する慰めの役目を果たしました。今や太陽にたとえられる天照大神の光の言霊学の復活です。光は世の中のすべての罪穢れを消し去ります。古代の日本天皇のことを竹内歴史は天津日嗣身光天皇（アマツヒツギミヒカルスメラミコト）と伝えています。

その 199 に続く

スメラミコトとは

スメラミコト（天皇）とは 10

島田正路氏著「コトタマ学」上より抜粋

その 199

人間の意識の始めを古事記は詳細に説明する。「天地の初発の時、高天原に成りませる神の名は天の御中主の神（言霊ウ）・・・」人間には天与の五つの性能がある。ウオアエイの5つの母音から現われ来る。ウは欲望、オは経験知、アは感情、エは実践智、イは生命意志の世界である。5つの性能があるから、言霊学問に対する人間の態度にも5つの段階が出来る。

欲望の次元から言霊学を見ると、何だか得体の知れない、つまらないもの、と感じる

であろう。「訳の分からぬ一銭にもならぬもの」という言葉が返ってくる。 経験知の立場から謙虚に聞くならば、言霊の概要は理解されるはずである。なぜだか分からぬが、言霊学の主張は本当らしい、ということにもなる。 その理解された立場から見ると過去の日本と世界の歴史、社会の変動の経緯の大筋がなるほどと思われてくる。けれどこの性能からは、将来の事に関しての見通しは真っ暗である。 過去の理解は出来るが、将来は分からない。経験知とは過ぎ去ったものについての知識の積み重ね、なのだから当然である。

以上欲望（ウ）と経験知（オ）の分際を知るためには人間が自分の生命の本性を知る必要がある。自分の知識、考え、感じ方の本体が自我であると思うことは幻なのであって、実は宇宙そのものなのだ、ということを知らなければならない。

言霊アを知ることである。その立場に立って初めて欲望と経験知の世界の、それまで気付かなかった真実の姿（実相）を知ることが出来る。この段階で人間は初めて自分自身の主人公となるのである。自分の生活に関する限り何の主義・主張にも、また霊的な影響にも依存することない文字通りの創造者となるのである。

けれどもこの段階では自分の住む社会と世界を他者としか見ることがない。更に段階が進むと、宇宙そのもの意志（言霊イ・古神道で皇祖皇宗の経綸と呼ぶ）とその原理の運用法（言霊エ）を知るようになる。今後の世界はどうなるだろう、から今後の世界をどのようなものにしていけばよいか、どのようにするか、に意識が変わる。社会と世界が他者から自己の責任の場になる。一人のスメラミコト（言葉を統べる人）の誕生である。

その 200 につづく

今より約 2000 年以前 かも大和町 10 代崇神天皇の御代を境として 日本の政治文化の様相は 180 度の転換を遂げました 崇神天皇による 3 首脳新規の道床京田制度の廃止が 天気となりました その時まで日本は数 1000 年にわたって日本の祖先日本人の祖先である日 siri の酵素講習の言霊フトマニの原理による平和で心豊かな精神文明を謳歌した時代が続いていました この精神文明農政課は外国

に輸出され世界は 1 つの言葉のもとに心の文明を等しく楽しむ時代であったのです この時代を人類の第 1 精神文明時代と呼びます やがてこの精神文明の時代に天気が来ます 人類の第 2 の物質文明の創造を促進させるための方策が我が皇祖講習によって撮られたのでした 外国においては 3500 年ほど前日本より精神文明の輸出は徐々に停止されましたこの時を契機に外国においては物質科学の研究が盛んになります 成果もあがりまして上がりだしてきました物品生産美術工芸の産業が次第に起こってきました 外国の転換に遅れること専念日本は神武天皇によって かも大和町 校長が発足しました外国と同様に精神文明より物質文明に政治の目的を転換させるためです 600 年後水神崇神天皇は精神文明の現地ことの原理 3 種の神器を伊勢神宮の神として世の中から完全に隠滅隠没させました日本における第 1 精神文明時代の終了であります さらに 400 年後かも大和町 14 代仲哀天皇の時となり外国において専念以前にスタートして しばらく 発展してきた外国の物質文化の精華を輸入することによって本能文明社会を築いて行かざるを得ない状況に立ち至っていたのですもっと詳しく言うならば日本がこれ以上 (の精神文明に募集して行くなれば日本の隣国の物質文化が進み 日本はその物質的権力によって滅ぼされ将来来るであろう精神文明と物質文明のドッキングによる人類の第 3 文明時代建設の時第 1 文明の元気の方時刻としての重要な任務を遂行し得ない羽目に陥る瀬戸際の時であったのです 物質文明の時代とは生存競争弱肉強食が避け難い時代なのですから 以上のような世界東洋の状況を背景として天照大神と 3 ツ尾ノ上のご神霊が神功皇后に書かれたのです

言霊の原理は 今から約 1 万年前 日本人の祖先によって発見されました 人間の心を構成する 50 個の言霊と その言霊の運用操作の典型的な方法 50 計 100 個の原理です 言霊のことをまたいい言霊原理を知る人を轍 siri と呼びました 日 siri の集団が大挙してこの日本列島にやってきて国を開きました 言霊原理に則ってその風土風習に合わせ物事に名前を付けその原理的な名前がそのまま集団生活に受け入れられる文化社会をつくることです 国家の始まりです 8000 年異性より約 3000 年前まで 5000 年間日本においてはにぎみ校長ひこほほみ校長ウガヤフキアエズ好調と精神文明の華やかな平和な時代が続きました 日本の先進文明の成果は世界に向かって輸出され世界は 1 つの言葉であったと聖書に着せられた世界平和の時代が続いたのですこの 5000 年の時代を世界の各宗教神話伝説は神代の時代として現在に伝えています 5000 年間続いた人類の精神文明時代の末期外国において今より 3 前年から 4000 年以前日本においては 2000 年より 3000 年以前長い間続いた精神文明に転換の時が来ました日本から外国に向けての精神文明の 1 室は 徐々に中止されましたそして外国においては精神文明とは反対に物事を自分らの自らの外に見て観察研究する物質科学的研究が発達してきました 人類ノ第 1 文明である精神文明に次ぐ第 2 のカガワ的 na 分化能帯刀ですそしてこの人類の物事を観察する新しい傾向を 100%決定づけたのが今から 2000 年前日本において断交された 言霊原理の隠滅という政治選択でありました 5000 年にわたる人類の精神文明の中心的よりどころは物事を人間のうちから見る精神性のすべてを解明した言霊原理でありますこの原理によって創造した 精神文明の文化の日本より外国に向けての普及をやめその末にその原理を保有し練習してきた日本の皇室自体が原理の運用を中止しその原理自体を人間の自覚の 段階からさらなる信仰の対象である伊勢神宮の神様として祀ってし

まったことにことでもありますカムヤマト超 10 代崇神天皇の時のことでありましたこの精神の歴史における 1 つの決定はその後の地球上の人々の心の持ち方を 180 度転換させてしまいました その時まで自明の理であった自らの家庭社会国家を想像する人間本来の能力を忘れ去ってしまいました発に何が起こり自分がどうなっていくかわからなくなった人間は自分が実際授かっている性能を神として祀った神社尾上明日の幸運を祈願するようになりました平和共存から弱肉強食 夕食の野獣の社会に変わった人類に対して姿勢者たちがとったせい政策は儒教仏教屋をはじめとする各宗教の創設でした 人々は自らの中にある人間の最も素晴らしい能力である創造原理おう今度は自ら外に外にある神様として明日に幸あれ to 拝むように変わったのです 以来 2000 年間人類は打ち続く船団 飢餓貧困病苦の社会の中から輝かしい人類の文明である物質科学文明を建設したのでした第 1 の人類の第 1 文明である精神文明の基礎となつたことが原理とほぼ同様の精密な性格の物質構造原理の解明に到達するのも近いことでしょうと同時にこの物質科学文明が この物質科学文明 ga 人間精神の規制を超えて独走するならば人類 no 破滅という運命が待ち構えている事態となりました この時を期していたかのごとく人類らじ文明の精神原理フトマニ は日本の祖先酵素講習の競輪に従ってこの地球上に昔ながらの姿を現したのですしかも 昔の日本皇室のこと生原理 6000 の制度ではなく心理は全世界に公開 解放されて日本語を話すことができ志ある者ならば誰も服とまとまりの原理を習得することができる状況が開かれたのです 以上お話ししました異なる原理を巡る人類の精神史は 次の図で示しましょう

やそまがつひの神 古事記の禊祓いの章に出てくるやそまがつひの神の意義を仏教の 10 ぼう会との比較

によって開設することにしよう 仏教に6道という言葉がある 人間が趣旨の煩悩によって奔走されて作る在
所のために車輪が回転して果てしがないように過去現在未来にわたり生まれ変わりにかわり影響に苦し
まなければならない6種類の苦しみの世界のことである 地獄餓鬼 畜生修羅人間天上の6種類である
この苦海に沈む人々を救おうとしてお釈迦様は仏法を説いた句会より目立つる仏の道である 6道の苦
しみに喘ぐ人々のことを仏教ではしゅうじょうと呼ぶ しゅう嬢とは仏の救済の対象となる 1切の人間のこ
とであるそして人はその心の悟りの程度により州城正門遠隔菩薩ぶったの5段階の生涯に住むとされる 週
譲渡は6道に苦しむ1切の人々のことである正門とは仏の道を聞いて悟りを開こうと努力する人遠隔と
はその悟りを聞いて解脱し自由平版の境地に入った人菩薩とは自らの悟りに満足せず句会にある人他
の人々を救う 食おうと発心した人のことである 最後のブツダとは世界の人を救済する努力の末に人間が
人間であるべき究極の法則を知りその中に住んで 1切醜状をみそなはしている境涯である ここで先に挙
げた6度仏道の5段階を縦に並べるとずの 08 3A が得られるこの授業が硫黄仏教は10方界と呼ぶ
仏の目によって見るとき10分解のうちのしたの6道の6段階は終了という1段階に吸収される 句会は
消える さてここで子供の話に移ろう 古事記のわずか 菅野 禊の小児休まつひの神という神が登場する
兼松氏の八重跳は人間の心の要素である 50音言霊音図を上下に撮った100音図のうち左右の母音
半母音の合計20恩を100本より差し引いた80 on のことである 図に示すと図08さんのbのようにな
る 普通50音図を上下2段に取り100音図を作るときに冗談はことだま55値段はその運用方法を中
の上下2段の鏡餅の原理を原理のこととされているしかし この50音図上下2段の100音図はさら
に広い意味内容を蔵しているこのことはこのことに関して古事記と言霊では要点を簡単に述べたが今さらに

詳しく説明してみよう 昔子供のこと 1 文字で人を呼んだまたその動きを光といったこの日で構成される高原の心は世界は ご母音 4 半母音 8 分イン 33 のシーンという 50 音言霊の世界である たかはらと言われる人間の思考の中枢領域にはこの 55 の言霊以外に他の要素は存在せず極めて平安正常な世界である この高原の清浄無垢な世界に対し古事記 de mo つ国とされる高天ヶ原以外の国 ga あるこの領域 ha 日であること mugen 離農自覚 au 光のない暗闇の世界であるよもつくには萌泉 no kuni no 意味である 文化のもととなるシユシユ雑多な考え方思想 ga 泉より水が溢れることあらわれるそれらの思考 アイディアは互いに競争 試合攻撃し合い結ばれ離れ果てしない葛藤の中に色々な社会の文化を生んでいく その姿はまさに葛藤の連続と言ったらよいであろうしかしその果てしない生存競争のおかげで物質科学 文化が発達しかくも便利な社会を現出したのではないかと反論する人もあろう確かに世の中は便利になり夢にも思われなかった華麗な社会が作られたと同時に人間が大自然という本性からとうざかる結果を招来したことも事実である そこで自らの外にある便利で興味がある機械多様な社会文化というものとまず脇に置いてそれを経験し京楽し追い求めている自分自身の心の内面だけを見つめてみてはどうだろうか そこには次々に変わる享楽の対象それを追い求める飽くなき欲求 1 日でもそれら享楽の対象がとうのく時にはたちまち欲求不満を起こす心対応で便利な社会の裏に繰り広げられる欲望の黒い渦巻きを容易に発見することができよう 現代社会の底では悪魔核なき欲求と生存への絶え間ない戦いを見ることである 各見てくると 1 方に異な言霊元の自覚ある高原の清浄な世界と片方に事の自覚のない黄泉の国の闘争が暗黒の世界があるそして双方ともが人間生命がそこに宇宙世界なのだ そこで前に示したよ様 1 の 100 音図の上下 2 段の母音のうち同じ母音の上下の実装の相違について考えてみよう 言霊い

い 冗談 フトマニ子供の存在する次元 言霊以外の 4 次元尾藤克之 8 分インによって 4 次元から現象を発現させる根本となる次元仏教の仏陀のいます兄弟でありすべてのことを知ってたの 4 条お味噌がわす 仏の 居所であるすべてのことを知って自覚してしかも自らは決して動かない境涯である仏教で曹司という 時間空間の現象を成立させる根源である 下段 言霊近く光がな**れゆえ暗黒で時間空間の停止した 世界であり まさに救いのない仏教で説くあり時刻血の池地獄針地獄と 1 度底に落ちたら永久に脱出し えず同じ苦しみ果てしなく続く世界である 言霊へ冗談 ことないのマニの原理の自覚に基づいて言霊を あの次元の事物を選び個人社会国家世界人類の福祉増進の想像のために働く道德の事件である仏 教で菩薩 以上という 下段人間の心の創造の法則の自覚を書くためその創造行為の選択は個人的体 験に基づくことない気まぐれで定見がない良いと思えばなんにでも飛びつく世の混乱の元となる 仏教で餓 鬼道と言う ことだまゝ冗談 世の 1 切の現象が現出してくる根元の宇宙が自らの生命の本体であること を自覚した人の境涯 1 切ノ一行延が解脱生まれたばかりの赤子に帰った人の境涯 心のわだかまりの ない爽やかな感情の次元仏教の遠隔城と呼びその境涯にある人を阿羅漢と言う 下段生命についての 自覚の全く無い 気まま奔放な心の人の基本外大人でありながら大人の分別がなく 世の中の規則の外 に住む人の境涯赤ん坊や野獣が時とところを選ばず大**を垂れ流すごとく人の迷惑も顧みず人生を送る 人の境涯仏教で畜生道という ことだまお ただし原理法則を学び冗談ただし正しい原理法則を学びやが て自らの経験値を総合して真理に達しようと研究努力している人の境涯 1 つの論争もその論議を通じて お互いに信じに達することを信じる境涯 仏教で言う声聞乗という 光景だん自らの経験による知識を絶 対と心得て何が何でも人や社会に押し付けようと主張する人の世界その論争の目的は心理に達すること

ではなく他人の議論に打ち勝つことだけを 17 だけ今年当然果てしない論争を巻き起こし人と人の争い果ては 国家間の戦争の原因をつくる仏教はこの教材を白戸という こと 言霊ウ冗談 5 感感覚に基づく欲望の世界に明け暮れしているがそれがそのまま光の自覚の恩恵の中に生かされて人類文明創造の担い手として生きる 弑弑ル弑生きとして生ける人々 仏教でしゅうじょうと呼び天井と名付ける値段光の自覚を失って 6 道に輪廻する人の総称仏教で人間と呼ぶいわゆる娑婆世界のこと 以上会おう英語母音次元に住む人の光の自覚の有無によりその境涯に大木相違 ga 生じることを見てきたそしてこの会おう英語母音を上下に撮った 10 段階は人間のあるべき境涯の全てでありまた それぞれの境涯の 80 no 実装は視点をの次元にとることによって最も明瞭に認識識別されることである それならこの 80 やそまがつひの神が可能機 式国に至りまひしときの毛刈りによりってなりませる神なり次にそのまがを直さんとしてといざなぎのおおかみが禊の実行方法として採用しなかったのはなぜかそのことについて説明し休む日の説明の本筋に入ろう休む人は 雨のなかぬしのかみより 須佐之男命まで言霊原理を示す 100 シーの中の 87 番目にあたる禊の章に出てくる神である 禊とは仏教のいわゆるを 1 切醜状摂取者の個人きゅうをすえ救済だけでなく世界のあらゆる精神的産物文化を摂取しコントロールして人類の歴史を創造して行くことである ただし処分花王接種コントロールした新しい歴史を想像することは素材としての文化を取り上げ批判し 取捨選択することと考えがちであるがそうではない伊弉諾尊は高天原から 妻の髪の色黄泉の国に行きその未整理 no 物質文化 物質科学文化を見て高原に逃げ帰ったそのそこで禊が始まる 禊とは清浄無垢の言霊原理を持って対象である黄泉の国の未整理 no 物質文化を批判し示唆することではない対象を批判するのはことだまおの働きであるけれど禊の想像は こと前に属している 杉戸は主体である伊弉諾尊が虐

待であるイザナミの尊と 1 つになった立場資格の立場ではなく主と客が 1 つになった宇宙新絶対 いざなぎのおおかみとなって自らの大宮の働きをすることである 禊とは相手を縫合し自分自身のことトゥーした創造である 批判するにしろまた 禊祓いをする西とその 素材となる黄泉の国の文化の実際の姿や内容を良く知らねばならないよく知るためにしてんごあ次元におくことが望ましい味源から見てたかはらと黄泉の国の文化の実装現象を上下 2 段の 80 言霊として表にまとめたのである しかるにこの 80 まがつひ 野上をかきたぬき 梨子鞠に至り給いし時の毛刈りに置いてなりませる神なりと言って禊の権利としては採用しなかったのはそれはなぜか 素材の実装明らかに見る仕事は実は兼松氏よりも以前に言霊 100 シーの中に 己に出来てきているのであるそれは禊の実行の基礎となる武甕槌斧神の属性として仕事を受け持つ越しのうちの最後に現れるあきひのうしのかみである明らかに組む仕事の主人公となる働きいいを持つ神名であるこの神の働きによって素材の す 素材の紙は 素材の姿は既に明らかに識別されているのであるからその上にさらに安全のところでのその作用を繰り返す必要はない休まず日は禊の対象往生ね上下 2 段の光の有無という 80 no 実装してみる働き脳ことではなく 禊の仕事は 80 の実装としてみてその実態を明らかにすることだけでは済まされずまたそのことだけで済ますことが悪い 災いこととなるのだという事の確認を示した新名なのであるこのことを踏まえることによって休まひな神なる新芽のうちの内容が理解されてくる人は他人の日を正そうとする時君はカクカクの上京の折にカクカクの行動を取ったのだよ多分カクカクの気持ちでやったことであろうけれどもきつとその時の状況を明らかにつれてその上でだから反省し改めなさいと言う態度で 持って臨むそれで成功することがないことはないが大抵の場合ほうまくいかないなぜか非難される

○ 型の人はそのような状況下における自分の行動ノ一非なることを知っておりしかもその気になる行動をどうし

ても取らざるを得なかったというのが実情だからである若っちゃいるけどやめられない ということなのだ こうい
う場合 1 切ノー状況や心理 no 暴露王手段トウする非難や説得は何の役にも立たないことになる 右
のやり方が上手な手段ではないということを確認することそれが休まつひのかみという神名の示す意味であ
るそれでは事態を改善させるためにはどうしたらよいか心理もつれを解決する方法はいつの場合もただ 1
つしかない 関係する人々のすべての状況や心理を承知しそれをふまえながら人を非難するのではなくまた
愚痴をこぼすのでもなくいまここで何をすべきかの 1 点に変えることである ある人が異世界起こしたとするそ
の人にどう対処したらよいかまずことが起こった時の状況その人の心理の状況事件のために気まづくなった
人々の心境等を良く理解しその上でどんな結果に持って行ったら 8 方円満に事が収まることが可能か お
心の内にまとめさらにその上でこれら初版の状況を知識として心にとどめながらしかもそれを 1 応そばに置いて
おき改めてことを起こした当事者である本人が納得できるしかも今ここで実行するどんな行動が可能かを
8 けんすることであろう ひとつの出来事を契機として個人の生活社会国家世界の将来を円満に想像して
行くためには心理的に未納示したような手順が必要でありまた不可欠である 事件の状況の分析と認識
にとどまってその実態をただ人の前に明らかにさらけ出すことでは物事の円満な解決にはならないことを確
認したこれが古事記における休まつひの神の神名が示す内容である この西 やそ松 ho まつひのかみはか
のきたら気なし国 イタリ-玉石時の怪我に焼いたなりませる神なりと古事記は指摘していることでまとまり
の光の自覚の世界はあいうえお応需 ご会葬の世界であるその他蒲原から出て黄泉の国にいちその文
化を見聞したことによって伊弉諾尊は光の自覚を欠いた 100 音図の下段の何の実態を知ることができた
そして光の自覚のある世界とない世界の八重の実装ただ見るだけでは 想像の行為にならないことも知っ

た 彼女ただ聞くに至り島へ行ったり玉石時 北崎によりなりませる神の理である 次にそのまま川七尾奈
理としてと古事記の文章は続くどのように治そうとしたのか今まで検討したことによればすでに明らかになっ
た 80 の 実装 o 知識として心に留めながら 言霊をしかもそれを 1 応そばに置いておいてあなたに溜めて
今ここで当事者が納得でき実行可能なことは何かを探ることことだまえであることだまおより異なるあえさらに
を言霊 a の が要求される さて状況に関する知識王そばには谷岡こと ha u は易く行うは難しいことであ
る人は往々にして知った知識をひけらかしたがる言い換える to 知識がそれを知った人を操って動かしたがる
それを抑えて知識をそばに置き炉畑に置き自らの頭の中を白紙に戻すことは至難である 常なる実行に
収斂が居る知識は乞食新芽でうましあしかびひこじのかみ と示すように足の目のごとく次から次へと連続
して止むことがないこの連鎖を真中に打ち切って白紙に帰る前例有効に帰るとは心の終焉の末に可能と
なることである 白紙に帰るとき事のあとは自ら知識のそばから脱して本来の創造の 1 点である今ここに立
つことである すると白紙であり空想のものの中から人間が本来授かっている創造医師の知識がほとぼしり
出てくる創造医師はお父様でありその知恵は言霊である古事記はさらに教えてくれるその マガジン 1 とし
てなりませるカミのはかまなおひのかみ次に央なおひのかみ次にいつのめの神 火は火の謎である 3 振は想
像石の原理言葉フトマニよって社会国家世界を創造して行く人間知性を代表する3つの根本恵一のこと
である この根本恵一によって示される時黄泉の国の光の近くの無い発想の暗闇の知識は瞬時に姿はそ
のまま創造の光の石となってコントロールされ事態進展の歴史想像の素材の役目を果たすことが可能にな
る 闇は光が当たると同時に消える闇の中の飲酒は即座に列記とした光の素材因子として創造の例会
死ぬ歴史の中に組み込まれる起こってしまった時代のいかなる因習もそれが 個人的に今は子宮思われ

ることで出来事であっても光の中に接種コントロールされる時は 1 つの現象として姿そのままに闇が消え光の因子となって採用されるそれはなぜか本来闇は存在しないものからであることからえやすまぢわから いつもの転換とは以上の如きものである ほぼ

すごいこと言ってるな